平成20年2月29日

従業員各位

株式会社　徳　・株式会社傳六
ノリックス株式会社・有限会社和公
代表取締役　髭岡　和徳

　前略、今月も業務に専心いただきありがとうございます。
先月から【毎月新聞】を発行し、この手紙と共に皆様の給料袋に入れさせていただいています。この新聞は私たちの会社全体のコミュニケーションツールとして全従業員と顧問の先生等私どもの会社にかかわる方すべてにご覧いただいております。弊社の業態の異なる7店舗で働く方に他の支店はどんな人が働いているのか、どんな仕事をしているのかが少しでもご理解いただければと思い5S委員会のメンバーが中心になって作成しています。出来れば皆様の家族の方にもごらんいただければありがたく存じます。
さて、現在賞味期限改ざん、食材偽装のニュースがいまだに新聞紙上にあちこちで出ています。冷凍餃子の事件は現在一ヶ月以上経過しても真相は解明されていません。現実には私どもの会社の食材にも一部中国産の商品が使われています。特に製造に人手がかかるような野菜のむきもの等は人件費の安い中国産を使用しがちとなります。経営者の立場としての私の考えは中国産というだけで「危ない」というレッテルを貼り、使用しないというのは早計であると考えます。国産を選べば無条件に安全が担保されるものではなく、食材の安全性はわたしどもと食品取引業者様、並びに毎日顔をあわせる食材営業担当者との付き合いにはじまり、卸と生産者、メーカーと製造元など流通にかかわる人間すべてがそれぞれのつなぎ目で「この人のためなら、この店のためなら、この会社のためなら最大限の努力をしよう」と思える人間関係を築けて始めて実現するデリケートなものなのです。私は今回の事件を契機に価格の安い高いだけではなく（もちろん安いほうがありがたいのですが）私たちのお店に来ていただく食材を配達する方、営業の方の態度や納期、不良品の割合などを確かめ取引を続けていい相手か再考しようと思います。また、私どもの店でも産地から直送している食材もあり産地を訪ね、人となりを見極めて本当に安全な食材を届けてくれるという生産者と契約しなければならないと感じます。もちろん私どもがそのように考えているくらいですから反対に取引いただいているお客様にも料理と共に安心をお届けしなければなりません。私を含めて私たちの会社で働くすべての従業員が人間としての賞味期限切れにならないよう他の人から信頼され、仕事を通じて社会に貢献し続けられるよう精進し、世の中に対して信頼のネットワークを再構築するきっかけにしたいものと考えます。

「私たちはお客様のために**常に**新しいことに挑戦し、食生活に**新たな価値**を創造しつづけます。」
すべては自分のために。
すべてはお客様のために。
すべては会社のために。
すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう

草々